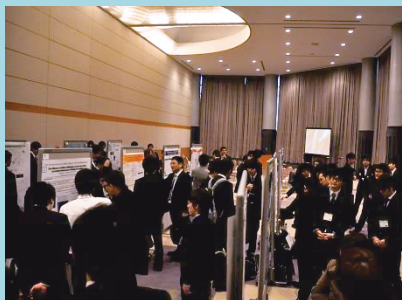




Tenth International Conference on Flow Dynamics, ICFD2013

**The Ninth International Students / Young Birds Seminar
on Multi-scale Flow Dynamics**

**November 25 – 27, 2013
Sendai International Center, Sendai, Japan**



ICFD:国際リーダー育成の場

2013 年 11 月 25 日から 27 日にかけて仙台国際センターにおいて、Tenth International Conference on Flow Dynamics 「第 10 回流動ダイナミクスに関する国際会議」が開催され、25 か国から 774 名（外国人 192 名）の方々が参加し、476 件の発表がありました。学生の参加者数は、321 名で、学外からの学生参加者数は 119 名でした。

Best Presentation Award

11 月 25 日から 26 日の 2 日間におよび、学生が主体となつて行われた学生セッション。教員および参加者による投票で、69 名の中から選ばれた 3 名の学生に Best Presentation Award が授与されました。



藤田 昂志
(東北大学 工学研究科
永井研究室 D2)

私にとって今回の ICFD は 4 回目の参加となります。毎回この賞を狙っておりました。例年以上に準備を入念に行い、この度初めて賞

を頂くことができました。私の研究を評価して頂き感謝しております。今後も研究に力を注ぎたいと思います。



James Herring (RMIT University, Australia, D1)

This is my first International Conference and am very honored to be recognized for my poster in the Young Birds seminar and I can't wait to return and experience the ICFD again in the near future.



庄司 衛太
(東北大学
工学研究科
圓山研究室 D2)

この度、栄えあるベストアワードを受賞することができ、大変光栄に思います。発表では海外の方々と議論で異なる視点からの意見を数多く頂き、刺激を受けるとともに議論を楽しむことができました。この受賞と経験を励みに、これからも研鑽を積んで参りたいと思います。

教育への貢献

学生の教育活動の一環として国際会議聴講生を募集。聴講後にレポートの提出を義務付け学部学生を対象に、聴講生を募集しました。

(一部レポート抜粋)

「本国際学会に参加したことで海外のユニークな研究や、質疑応答の高度なディスカッションに良い刺激を受けることが出来ました。さらに海外の研究拠点および研究機関での活動の様子を知ることができ、自身の研究意欲の向上につながりました。一方で目的としていた、卒業研究の参考となる知識や見解も得る事も出来たので国際学会参加の意義は大きにあったと感じました。」

(東北大学 工学部 4 年 高木研究室 松本 貴則)



左：神田 航希(コオーガナイザー)
真中：岡部 孝裕(オーガナイザー)
右：馬淵 拓哉(コオーガナイザー)

学生セッションオーガナイザー

この度、学生セッションのセッションオーガナイザーを務めさせて頂きました。学生である私にとって、このような機会は普段得ることのできない大変貴重な経験であり、やりがいのある仕事だったと思います。セッションオーガナイザーの役割は学会当日の運営だけでなく、講演論文の集計やプログラム作成など、一から主体となつて学生セッションを作り上げていくことです。初めての経験ということもあり、大変であった反面、学生セッションを無事終えることができた際は、大きな達成感を得ることができました。そして、無事終えることができたのも、一重にアドバイザーの先生方、歴代のオーガナイザーの方々、事務局の方々のご協力があったことと強く感じております。この場をお借りして御礼申し上げます。また、今回の運営で得た経験を、ただの「良い思い出」にするのではなく、将来の様々な場面で活かせるように教訓としていきたいと思っております。(東北大学 工学研究科 圓山研究室 D1 岡部 孝裕)



ICFD2012 撮影

教育成果の顕われ

9年前は、日本人学生の発表といえば、棒読みでたどたどしい英語だったのが、ここ数年は、日本人の学生の方がプレゼンテーションが上達してきた。これは、これまでのICFDを通し、先輩方の発表を見てきて、国際会議において、研究内容をしっかり発表できるようになった教育成果の結果だと確信している。

(東北大学 流体科学研究所 教授 圓山 重直)



ICFD が合言葉

ICFD も 10 回目を迎え、国内をはじめ海外の研究者からも「ICFD」という言葉を耳にするようになった。先日も国際会議に出席したところ、参加者から「来月、仙台に行くよ。」と声をかけられた。名札を見て、私が東北大学の関係者であることを知り、声をかけてきたのであろう。「ICFD」は世界の流体関係者の合言葉になりつつあることを実感した。

(東北大学 流体科学研究所 准教授 小宮 敦樹)



ICFD2011 撮影

リピーターがリピーターを

【教員が学生を連れてくる】

Since 2010, we have been providing researchers and students from Taiwan. We have 8-14 attendees from Taiwan almost every year. This conference contributes to education. We will continue with glory.

(Professor Jong-Shinn Wu, National Chiao Tung University, Taiwan)

Friendship Night での集合写真 食事楽しみのひとつである



Eleventh International Conference on Flow Dynamics (ICFD2014) 開催のお知らせ

第 11 回流動ダイナミクスに関する国際会議を下記の通り開催致します。
是非、ご参加下さいますようお願い申し上げます。

日にち：平成 26 年 10 月 8 日（水）～ 10 月 10 日（金）

場 所：仙台国際センター(仙台市青葉区青葉山無番 <http://www.sira.or.jp/icenter/english/index.html>)

URL: <http://www.ifs.tohoku.ac.jp/icfd2014>

ICFD 事務局：東北大学流体科学研究所内 ICFD 事務局 (仙台市青葉区片平 2-1-1)

TEL&FAX: 022-217-5301 E-mail: icfd2014@fmail.ifs.tohoku.ac.jp



See you at ICFD2014!

東北大学流体科学研究所
卓越した大学院拠点形成支援
「流動ダイナミクス知の融合教育研究世界拠点」事務局
平成 26 年 2 月発行

〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平 2-1-1
東北大学流体科学研究所卓越拠点事務局
TEL&FAX 022-217-5301